

次は私かもし れない、という 気持ち

乱入

大阪府下H市のF小学校に金属バットと包丁を持った男が乱入し、窓ガラス数枚を割った上、教諭一名に軽傷を負わせた。小学校の危機管理対策に関してド素人の私だが、この小学校の先生方は結構がんばった方だと思ふ。

新聞テレビの報道によれば、放課後、職員会議中だった教職員は、不審者の学校敷地内への侵入を知るや手分けして校内の児

童を誘導、職員室隣の印刷室に避難させた上、校舎すべての入り口の施錠を試みた。ここまででは文句なしの手際よさである。校舎内に籠城して警察の到着を待つつもりだったのであろう。作戦としてはベストだ。

ところが施錠が間に合わずに不審者に校舎内に侵入されてしまう。結局、剣道六段のS教諭が侵入者を制止しようとして腹部を痛打されたらしい。結果的に制止に失敗したとはいえ、武装した、血塗れの(包丁で自傷していたらしい)、しかも半狂乱の男に立ち向かっていったS教諭の勇気は称賛に値する。「究極の護身術は逃げる」といふことが、立場上逃げるわけにはいかなかった。S教諭はまさにその「一生に一度あるかないか」の窮地において、自らの危険をかえりみず敢然と暴漢に立ち向かった。感動のあまり、私は無礼を承知でS教諭にF小学校教諭付でお見舞いの手紙を書いたほどである。

紙一重

もつとも、岡目八目を承知で言わせてもらえば、ブリキやバケツの投擲や消化器の

聞く耳を持たない半狂乱の暴漢を相手に、「暴力を憎む」善良な教員はどう立ち向かうつもりだろう。対人接近戦闘術の流れをくむ(戦闘自体ではない。念のため)剣道六段のS教諭でさえ、暴漢の制止には失敗しているのだ。何ら格闘技の心得のない教師であれば、抵抗することさえおぼつかずパニックに陥ることもあるだろう。中には恐怖感が職業意識を凌駕して、子どもを差し置いて自分だけ逃げ出してしまふ人も出るだろう。戦闘訓練を受けた経験のない民間人としては別に珍しくない行動だ。しかしその姿を子どもたちは見ている。そしてその姿は長く語り継がれる。

可能性

こんなことを考えている矢先、大阪府下、S市の路上(正確には路肩用水路内)にて、小学校二年生の女児Cちゃんが首を絞められ、意識不明で発見された。H市もS市も私の生活圏内で、両現場とも何度も通りがかったことがある地点である。特にCちゃん事件の現場までは徒歩で二〇分かかからない。事件直後、近所の路上からは遊び回る子どもの姿が消えたが、それも一時の

ことだった。無理もない。四六時中子どもを監視していることができない以上、親御さんたちも「運が悪くなければ被害に遭わない」とでも腹をくくるしかないのだろう。

あなたの職場(客商売なら特に)が第二のF小学校になるかもしれない、とか、あなたのお子さんが場合によっては配偶者や恋人(が第二のCちゃんになるかもしれない、とか言うつもりは、もう ない。ただ私は、次は私の番かもしれない、とあらためて思う。数年前には確か東京都内の小学校に鎌を持った青年が乱入して児童を傷させた。大阪市内の百貨店で包丁を持った男が暴れたのは三年前のことだ。決して珍しい事件ではない。

その時

私の散歩コースにあたる近所の公園では、いつも一〇人弱の子どもが遊んでいて、父母または祖父母とおぼしき人たちが付き添っている。ここに金属バットと包丁で武装した半狂乱の暴漢が乱入したとして、私はいったいどうするだろう、と時々考える。見ず知らずの人々を助けるべく暴

噴射などで相手の動きを止め、モップの柄など相手の武器より長いものでこづき回し、武器をたたき落とすから取り押さえても遅くはなかつたのではなからうか。「S教諭は剣道六段だったため、とつさに身かわわして軽傷ですんだ」というのがテレビのレポーターのコメントだが、剣道六段で接近戦に自信があつたから私のような卑怯なことを思いつかず、組み付いてしまったのではなからうか。勇気と無茶は紙一重である。見ている

恐慌下

さて私が危惧するのは、全児童が在校している時間帯にこの事件が起こつたらどうなつたであろうか、ということだ。教員は自分のいる教室と周辺の窓やドアを速やかに施錠しなければならぬ。廊下や昇降口周辺の施錠を行う場合、さらには校庭で体育の授業を受けている児童を校舎内に誘導する場合、教員には児童の目の前で暴漢と対峙する覚悟が必要になる。この時すべての教員がS教諭のように敢然とふるまえるだろうか。はなはだ怪しい。特に、人の話に

漢の制止を試み、自ら死傷して親しい人々を悲しませるか。自分一人が安全地帯に逃げ去つて子どもや老人を見捨て、後日良心の呵責や「なぜ助けてくれなかった」という遺族の抗議に苦しむか。おそらくその日の気分と体調と装備(武器として使えそうなもの)によつて決まるだろうと思ふ。

軽蔑

しかし、正直なところ、暴力を軽蔑している人(彼らがそうだと言うつもりはないが、大半の日本人は暴力と権力を軽蔑している)と目してまず間違いない)のために暴力を使うのは馬鹿馬鹿しい。兵庫県下の自治体の防災訓練に参加を申し出ながら断られ続けてきたという自衛隊は、どんな気持ちで阪神大震災後の救援に従事したのだろうか。「最近給水所の自衛官がくわえタバコでけしからん」と知り合いの被災者が語つたのは震災から二ヶ月もたない頃だった。